光輪

第 109 号

〒950-2022 新潟市西区小針４丁目５番 18 号
真宗仏光寺派　瑞林寺　光輪会
電話（025）266-1846 ・ FAX（025）266-1907
瑞林寺ホームページ http://www.zuirinji.com

後藤　純男『新雪大和』瑞林寺所蔵

月に一度は私の寺へ　―聞法の日―

親鸞聖人ご命日

しんらんさまの日

毎月28日は　二十八日講　午後1時30分～

除夜の鐘 ご案内

大晦日午後 11 時 30 分より
本堂にて 甘酒 を用意しております

ご家族でお参りください

修正会法要（しゅしょうえ）

元旦　午前 11 時より

「正信偈」　唱和
住職年頭のことば
光輪会会長あいさつ
お屠蘇（おとそ）　大広間にて

月参り　1月 6 日（土）より始めます
初お講　1月２８日（日）13：30 より
※ 初お講とは二十八日講、しんらんさまの日となります

瑞林寺ホームページ http://www.zuirinji.com

Google マップストリートビューで境内から本堂のご本尊もお参りできます。

老院の探る 瑞林寺の由来と歩み ⑩

栃尾と小針をむすぶ仮説

ここまで石田先生の研究に導かれながら、瑞林寺が栃尾と小針を結ぶ可能性について愚見を試みてみました。整理してみますと、

(1) 寺号、瑞林寺は共通である。禅宗のお寺では「瑞」の文字がついた寺院が多くみられます。石田先生の寺も瑞雲寺様、市内の西堀にも瑞光寺様と身ぢかですが、全国二万余りの真宗の寺で瑞のついた寺院は、蓮如上人ゆかりの瑞泉寺のほかはまれで、瑞林寺は、真宗の寺ではなじみのない寺号です。

(2) 栃尾、小針の両寺とも「上杉家に係わる」開基との伝承を共有する。

(3) 「慶長三年三月の小針開基」の伝承と、会津への慶長三年の上杉家国替のあわただしい一月十日から三月末日までの秀吉が厳命する短期間の移動のなかで、「三月開基」とあることは注意すべき史料ではないでしょうか。

(4) 小針瑞林寺開山智了を門察、もしくは栃尾瑞林寺ゆかりの人と同一人物と仮定してみた場合、小針の初代智了は、慶長五年に七十五歳で没していますが、小針定着の時はすでに七十二、三歳の老人です。門察と同門の昌派は慶長五年の五年前に六十九歳で遷化しておりますので、昌派・門察＝智了の三名ともほぼ同年齢にあたります。

(5) 外護者であった上杉家の代も替わり、栃尾城主の本庄氏も滅亡し堀家の支配地になった今、栃尾における瑞林寺の存在感の低下は否めません。また乏しい寺領では今後の展望は望めないと感じた。

(6) しかも、老体が冬二月、越後の雪の峠を越えたり、阿賀野川を上っての会津移動は、体力的、年齢的にも限界であろう。

(7) しかし、上杉家ゆかりの由緒と謙信公との縁の深さから、瑞林寺の名跡を歴史に留めたい、熱い願いと情熱は会津への途次新潟津まで来たが、越後の平島郷、小針の地に足をとめ、瑞林寺の再興を願ったのではなかろうか。

仮説の問題点の数々

このような我見にもとづいて推論してみましたが、沢山の難点があることがわかります。

(1) 栃尾の瑞林寺はれっきとした禅宗の寺院なのに、なぜ小針の瑞林寺は浄土真宗なのか。
禅僧門察が他力浄土の門徒の僧、智了に転向することは当時ありうることなのか。

(2) なぜ、小針の地に瑞林寺を開基したのか。
慶長の初め、小針の地はささやかでも草庵を開けるような人の住む里であったであろうか。小針の地名は、元和四年（１６１７）の牧野知行の検地の記録にはまだ見えていません。

(3) 門察和尚の墓は、若き謙信時代の学問の師、瑞林寺五世・常安寺開山として現に栃尾に建てられて存在しております。
小針瑞林寺初代の智了法師と、門察和尚は年齢的にほぼ同年齢とはいえるが、でもそれで同一人物といえるか。
などと、まだまだ線を結ぶには問題の数々がありますが、愚老の思いつくままに疑問点をあげてみました。

淤泥華（おでいげ）

■ 十一月には仏光寺本山の御正忌報恩講に二十七日と二十八日のおあさじまで法要に出仕しました。

■ 今年は真覚新門様のご登壇。新春四月には新しい仏光寺本山のご門主様の誕生です。
恵笑御門主様の最後の御親教はご苦労の中から仏法に出あわれた喜びがせつせつと語られました。

■ 総代の樋口さん、仲由さんの奥様二人が本山の報恩講にお参り下さいました。仲由さんは先代から本山に須弥壇納骨をされ、またご自分たちも同じく予約しているので、ようやくお参りに来られたことを喜んでおられました。

■ 夜は鴨川の見えるレストランでごいっしょに夕食をさせて頂き、新潟とは違った一日を満喫しました。

■ 秋の京都は紅葉もきれいで、宿をとることは難しいのですが、本山の報恩講にお参りの旅行はとても充実しています。
瑞林寺光輪会でもこの時期旅行ができたらと思いました。

■ 本山から瑞林寺に帰り、自坊では毎月の聞法会の二十八日講です。自ずと法話に力がはいりました。

住職年頭のあいさつ

新年度の目標 「月に一度は私の寺へ」 ―こころに仏の灯を―

新年おめでとうございます。
皆さまには、ひごろ瑞林寺のため尊いお力添えをいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。
世界は混迷を極め一発触発の危機、先行きますます不安な時代を迎えて苦悩は深まり、これまでの「ものさし」で計れない事件や事柄が次々に起こっております。
「こころの依りどころ」として立つのがお寺の存在の意義です。
二十八日は、私たち真宗の門徒にとって宗祖親鸞聖人のご命日。門徒が一番大切にしてきた**しんらんさまの日**です。
迷いの闇を破るのが「お念仏」そのお念仏のこころ、意味いわれを「聞きひらく」場所が本堂です。
毎月二十八日には瑞林寺に縁ある皆さまと住職を先頭に、月に一度は尊い仏さまの教えにふれるお寺づくりをめざして、スローガン**月に一度は私の寺へ**を掲げて、新年の出発にしたいと思います。
どうぞよろしくお願いします。

毎月の聞法会

◎二十八日講
毎月二十八日・午後一時半～
法話「正信偈」に聞く
前席 住職・後席 老院

◎宝池の会
毎月第三火曜日・午後二時～
法話「歎異抄」に聞く
住職

◎お経会
毎月第三木曜日・午後七時～
法話「阿弥陀経」に聞く
住職

◎朝のおつとめ（お朝事）
毎朝午前六時より
（永代経の読経がつとまります）

文化・サークル活動

◎小針の歴史を語る会
毎月第三日曜日・午後一時半～
「西山公一日記」を読む　他
適宜、郷土史を学ぶ

◎寺子屋習字教室
毎月三回金曜日・午後三時半～
（月二回習字・一回硬筆）

◎フットサル
毎週火曜日・午後八時～十時
場所　グランセナフットサルコート

瑞林寺年間行事

元旦 午前十一時	修正会法要 お年始参り	
一月二十八日（日） 午後一時半	二十八日講の初お講	
二月十七日（土） 午後二時	世話方研修会	新年会
三月十八日（日） 午前十時半	春彼岸法要 本山差向布教 無量寿廟法要	
五月中旬	春の一日研修旅行	
五月二十八日（月） 午前十時半	法中講（寺お講）	
六月十七日（日） 午後二時	世話方会議	
七月八日（日） 午後一時半	光輪会総会	
八月十三日（月）	お盆まいり	
九月二十三日（日） 午前十時半	秋彼岸法要 永代経法要 無量寿廟法要	
十月十四日（日） 午後二時	仏具磨きと世話方研修	
十一月六日（火）～八日（木）	親鸞聖人報恩講	
十二月 三十一日	除夜の鐘 歳暮法要	

老院の迎春 ――つれづれなるままに――

「病み上手の死に下手」な私も今春四月には八十歳を迎えます。
二度のガン手術で、「私はガンではない。ガンは私の身体の部品である胃や膀胱だ」と、ホラを吹き、それぞれ二十二年、十六年経過しました。
幸い、やりたいことは山ほどあれど時間不足。老齢の体力・根気の衰えは自然のならい。やり残しがあっても悔いはサラサラ無し。
無限の世界に向かって一歩一歩。お迎えが来ればハイそれまで。
今度はお浄土の仏様に特進です。
かかりつけの医者も持たず、薬の服用なし。ドックも検診も受けず、日にタバコ一箱ふかし、ズルク怠けてわがまま暮らし。
急死のおりは検死が必要とウソブキ、頭が疲れたときは庭の草取り。尽きない雑草と落葉はかぎりなく私を癒してくれます。

平成 30 年度　年忌法要

1 周忌	平成 29 年
3 年忌	平成 28 年
7 年忌	平成 24 年
13 年忌	平成 18 年
17 年忌	平成 14 年
23 年忌	平成 8 年
27 年忌	平成 4 年
33 年忌	昭和 61 年
50 年忌	昭和 44 年
百年忌	大正 7 年

報恩講の御礼

平成二十九年度の報恩講も去る十一月六日の夜、お初夜のお勤めから八日の午後のお満座まで、まる二昼夜、午前のお日中、午後のお逮夜、夜のお初夜の法要とつとまりました。
役員、世話方の皆さんはその前後の準備にあわせて、何日間もご苦労いただきました。

準備の様子　お華束（けそく）もり

報恩講は、浄土真宗の門徒にとって一番大切な重い行事、お寺の門徒全員あげておつとめする、親鸞聖人の年に一度のご法要です。
親鸞聖人のご命日は十一月二十八日、ご本山は七日間、二十一日から二十八日間でつとまります。
毎年、報恩講が始まるまで、住職として今年も乗り越えられるか心配がつのります。
しかし、報恩講を終えての感動はなんともいえません。報恩講は瑞林寺につらなる門信徒のすべての方々のお力でつとまります。
今年もお一人お一人のおかげさまでにぎにぎしく報恩講がつとまりました。
今年は昨年度よりお一人でも多く、瑞林寺の本堂に足を運びお念仏のご縁を結び、親鸞聖人にお会いくださるようお願いします。
住職 拝

七日お通夜　インド舞踊

報恩講 懇志志納者

（敬称略・順不同）

壱万円
水落　義樹
中由久右衛門
巖念寺
相沢企業
渡辺石材
第一開発
福宝
川崎　五郎
山崎　正徳
滝澤　徹也
小島　廣保
樋口仁左衛門
石渡　勝春
樋口　賢作
仲由久四郎
窪田　満

八千円
山崎美代子

六千円
高橋　長七

五千円
梨本三五平
笠原　フサ
中沢角左衛門
白石　馨
樋口トキイ
小島　綾子
佐藤　友厚
諸原　末吉
梨本　正義
赤原　栄一
吉村　智之

小泉　清子
岩原　三男
渡部　角平
霜島　徳治
斎藤　綾子

四千円
中沢日出男
山田　啓一
石井　秀志
本間　賢吉
樋口儀左衛門
石塚　智子
渡辺　道子
渡邊ノブ子
細川　功一
山下　善美
樋口　健二
樋口　半助
阿部　友治
黒田　順子
宮島　和子
増田　純夫
長田　猛
小菅　大介
山下　俊栄
渡邊　正之
後藤　光晴
田村三太郎
福田　久雄
梨本　直孝
伊藤石五郎
下川　照雄
渡辺　武彦
樋口　静司
佐伝　康昭
伊藤代志子
成澤　幸七
花野　雅文
勝本美佐子
田中　修一
志田　光雄
古谷　常敏
三浦　武雄
栃倉　康江
栗原　勇
上村　宏三
有波　裕介
西潟純一郎
小林ヒデ子
高橋　暢夫
吉田　智
五十嵐春司
鈴木　政美
山岸　俊衛
横川　薫

三千円
片岡　信一
磯部　幸子
平島　伸一
田中　篤
水野満洲雄
樋口　健二
池　しづ子
百川　智
鷲津　タエ
福田　雅旨
渡辺　健策
園部　邦彦
大橋　忠俊
長谷川栄子
丸山　栄一
村山　努
後藤　勝也
古川　勝治
高岡　久子
田中ヨシ子
小出　実
石井キミ子
皆川　士郎
樋口　隆
勝本美佐子
伊藤代志子
大橋　忠俊
長谷川栄子
丸山　栄一
村山　努
後藤　勝也
古川　勝治
高岡　久子
田中ヨシ子
小出　実
石井キミ子
皆川　士郎
樋口　隆
高橋美美子
栗林　洋子
渡辺　茂之
外山　和幸
田中ナツノ
村山　寛
斎藤　憲行
渡辺　荘松
佐藤伊左衛門
前田　公治
長谷川正明
山下イツ子
高橋美美子
木村　昌子
荒木　貫一
樋口　正蔵
小林　賢治
西野　恭子
近藤　俊男
井上　義光
片岡栄太郎
樋口　弘子
宮尾　裕子
沢田　建設
田宮　篤
中川　捷栄
渡辺ゆり子
栃倉　康江
栗原　勇
上村　宏三
有波　裕介
西潟純一郎
小林ヒデ子
高橋　暢夫
吉田　智
五十嵐春司
鈴木　政美
山岸　俊衛
横川　薫

樋口ハルイ
高橋ヨイ子
笠原　サチ
伊藤　ヨシ
鈴木　孝一
青柳　テル
仲由真理子
鈴木　タツ
須磨　ナヲ
平　フミ
伊藤賢次郎
内山　照
高津スミノ
前田　五助
渡部　末松
小林　貞夫
松木　徹男
大塩　幸子
木村　昌子
栗林　洋子
渡辺　茂之
外山　和幸
田中ナツノ
村山　寛
斎藤　憲行
渡辺　荘松
佐藤伊左衛門
前田　公治
長谷川正明
山下イツ子
高橋美美子
栃倉　康江
志田　光雄
古谷　常敏
三浦　武雄
栗原　勇
上村　宏三
有波　裕介
西潟純一郎
小林ヒデ子
高橋　暢夫
吉田　智
五十嵐春司
鈴木　政美
山岸　俊衛
横川　薫

長谷川昭三
大谷津弥子
池島栄三郎
酒井弥一郎
櫻澤恵美子
鈴木　啓宏
渡部　徳七
渡辺　勝男
福井　智弘
丸山　勝利
樋口佐治平
本間　則子
小林イエ子
渡部八右衛門
中林　忠博
広川　芳雄
吉田　昭一
樋口　半七
樋口　平蔵
小林　六助
荒木　貫一
樋口　正蔵
小林　賢治
西野　恭子
近藤　俊男
井上　義光
片岡栄太郎
樋口　弘子
宮尾　裕子
沢田　建設
田宮　篤
中川　捷栄
渡辺ゆり子
栃倉　康江
栗原　勇
上村　宏三
有波　裕介
西潟純一郎
小林ヒデ子
高橋　暢夫
吉田　智
五十嵐春司
鈴木　政美
山岸　俊衛
横川　薫

志し
遠藤　政博
伊藤　与七
宮嶋　成雄
熊谷　卓
野瀬　正廣
樋口　政直
森本　正勝
川口　聡
小西美津江
仲由　謙二
斎藤　仁
梨本　高幸
小宮山文康
渡部　八司
吉田　龍一
高橋ゆき子
小山　伸之
碇　要二
村上　芳枝
栗原　勇
上村　宏三
有波　裕介
西潟純一郎
小林ヒデ子
高橋　暢夫
吉田　智
五十嵐春司
鈴木　政美
山岸　俊衛
横川　薫

お仏供米
尊い懇志　誠にありがとうございました

記載漏れ等がございましたらご連絡ください